

2024年度 第7回 豊岡市子ども・子育て会議 議事要旨

日時 2025年3月24日（月） 13時30分～  
場所 豊岡市役所 大会議室  
出席者（委員） 水落会長、曾根副会長、天野委員、一ノ尾委員、鈴木委員、田中委員、戸田委員、  
吉岡委員、森本委員、三輪委員、水田委員  
（事務局） 永井部長、若森課長、佐伯参事、福田主幹、山崎主幹、谷垣係長、吉本課長、鳥居所  
長、道下課長補佐、中村主幹、向原課長、河本参事、三輪参事、谷口参事、谷垣課長  
補佐、樋口主幹、磯係長  
欠席者（委員） 上坂委員、大友委員、川島委員、渋谷委員、永田委員、西垣委員

会議次第

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 議事
  - (1) 報告
    - ア 幼稚園・保育所・認定こども園の利用状況等について
    - イ 放課後児童クラブの利用状況等について
    - ウ 豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画の進捗状況等について
    - エ 2025年度予算 主なこども施策に係る事業の概要について
    - オ 豊岡市の出生数の推移について
    - カ 市の組織（事務局関連）の改編について
  - (2) 協議
    - ア こども計画（案）について
    - イ 2025年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業について
      - （ア）利用定員について
      - （イ）量の見込みと確保状況について
  - (3) 意見交換
- 4 その他
  - (1) 次回の会議日程
  - (2) その他
- 5 閉会

配布資料

資料1	豊岡市子ども・子育て会議委員名簿
資料2-1	幼稚園の入園状況
資料2-2	保育所・認定こども園の入園状況
資料3	放課後児童クラブの利用状況等について
資料4-1	「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」の進捗状況等
資料4-2	「豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画」予定

スケジュールと進捗状況

資料 5-1	2025年度予算 主なこども施策に関する事業（一般事業）
資料 5-2	2025年度予算 主なこども施策に関する事業（地方創生事業）
資料 6	豊岡市の出生数の推移について
資料 7	こども未来部・教育委員会事務局組織図 新旧対照表
資料 8-1	豊岡市こども計画（案）
資料 8-2	豊岡市こども計画概要版（案）
資料 8-3	豊岡市こども計画こども版（案）
資料 8-4	豊岡市こども計画（案）の前回からの変更点
資料 9-1	2025年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の利用定員
資料 9-2	2025年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の量の見込みと確保状況
参考資料 1	豊岡市子ども・子育て会議条例
参考資料 2	豊岡市子ども・子育て会議傍聴要綱
参考資料 3	認定区分について

議事要旨

1	開会	開会の宣言（事務局）
2	会長あいさつ	会長あいさつ
3	議事	
	(1) 報告	
	事務局	ア 幼稚園・保育所・認定こども園の利用状況等について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料2-1~2</span>
	会長	事務局からの説明に対し質問等はあるか。次に移る。
	事務局	イ 放課後児童クラブの利用状況等について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料3</span>
	会長	日高地方だけが増える見込みという話があったが、それはなぜか。
	事務局	小学校に入学する1年生60~70名のうちの8~9割が児童クラブに入ることになるので、おそらくその地域の需要が高まっていると思われる。
	会長	他にあるか。次に移る。
	事務局	ウ 豊岡市における幼児教育・保育及び放課後児童のあり方計画の進捗状況等について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料4-1~2</span>
	会長	事務局からの説明に対し質問等はあるか。次に移る。
	事務局	エ 2025年度予算 主なこども施策に関する事業の概要について <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">資料5-1~2</span>
	会長	事務局からの説明に対し質問等はあるか。
	委員	先日の子育て座談会で話が出たことを情報共有させていただく。 まず、2の主な事業（1）のウ「中央公園の整備」について、無料駐車場の整備を考えていただきたい。 次に、夏場に子どもと外遊びがしやすいので、気軽に水遊びができる場所を作ってほしい。豊岡市は、海があり比較的外遊びがしやすい環境であり、「わくとよおか」や「どんぐりbase」などクーラーの効いた屋内施設はあるが、例えば、噴水があってそこで気軽に水遊びができるような場所を作ってほしい。
	委員	（3）のウ「こども・子育て支援施策の情報発信」で、子育て支援サービスがわかるリーフレットとあるが、こどもが小さい時は読む時間がない。「母子モ」等の今あるアプリを上手く活用し、子育て情報を発信してほしい。
	事務局	総合体育館の工事で「らくだ公園」が無くなり、とても困っている。中央公園まで行ったらいいのだが、南中とウェルストークの間にある保育園からは遠い。 中央公園が、駐車場が少なく路上駐車もされている状況は、市も把握している。しかし、市営駐車場や民間駐車場が近くにある点を考えると、無料駐車場の整備は難しいと思われる。隣に豊岡コミュニティセンターもあるため、その辺りも考慮して現在の駐車場の数となっていると思われる。

地域の利便性を踏まえた公園をということで、先程委員の話にあった公園は総合体育館を改修する際に閉じた公園のことだと思うが、農協さんの横の公園にその機能が移ったと認識している。そこでは遠いということだろうか。

委員 農協さんの横の公園は、出入りがしにくく狭い。総合体育館の横にあった公園は、広くてとても快適だった。

事務局 承知した。駐車場の件、公園の件、水遊びの件については、それぞれの所管課に意見を伝える。

「母子モ」については、さらに充実した機能というのは考えていない。子育て関係の情報については、「Toyooka iD0」のアプリを活用し、イベントの情報等を発信していきたいと考えている。

委員 「母子モ」はうえだあかちゃんこどもクリニックで大きなポスターを見たので知っていたが、「Toyooka iD0」は知らなかった。

事務局 市としていろんな情報を発信しているつもりだが、埋もれてしまうこともある。病院等ご協力が得られれば、「Toyooka iD0」についても掲示を依頼したいと考える。

会長 市民限定アプリを作ることはできないか。市民に優しいまちづくりを考えた時に、例えば市民限定アプリで公園駐車場を無料とすることで、豊岡市に住んでいる人たちが公園に通いやすくなる。豊岡市に移住したい、住みたいという人も出てくるのではないか。

委員 市民限定アプリは大賛成である。但馬ならではの自然の中で遊べる環境というのは、どの公園よりもすばらしい環境である。スキー場の利用についても、地元の子どもたちは無料にするといったことも取り組んでほしい。

事務局 先ほどの駐車場の件について確認したところ、中央公園の整備計画の中に入っていた。コミュニティセンターの駐車場不足をカバーするという目的なのでどれだけ中央公園の駐車場不足をカバーできるかは分からないが、市民体育館の跡地にできるボール広場の整備と併せて駐車場ができるということである。

会長 各事業における効果検証も今後検討していかなければならない。数の増減だけでなく、なぜそうなったのか質的な分析をしていくことで、豊岡市にとって何が本質的に必要か明確化されていくと思う。

他にあるか。次に移る。

事務局 **オ 豊岡市の出生数の推移について** **資料6**

会長 事務局からの説明に対し質問等はあるか。

委員 出生数の減少の原因は何か。

事務局 こども計画の11ページにあるが、市民へのアンケートで「理想の子ども数を持たない理由」を聞いている。ここで上がっている複合的な要因があると考えている。

委員 10年で出生数が半分になるということは、何か関連した要因があると思う。たくさんの要因が少しずつ効いて半分になったのか、あるいは、大きな要因が

あるのか。因果関係を分析して、施策を講じて食い止めることが大事だと思う。

会長 おっしゃる通りである。徐々に低下する要因というのは何かしら必ずコアになる原因というのが存在している。そこをしっかりと押さえた上で、今後豊岡市として検討していくのは大事だと思う。

事務局 少子化は全国的な現象であるが、こども家庭庁で少子化の背景が出ているので、参考としてお伝えする。まず、経済的な不安定さ、出会いの機会の減少、仕事と子育ての両立の難しさ、家事・育児の負担が依然と女性に偏っている、子育ての孤立感・負担感、子育てや教育に費用が掛かり過ぎる、個々人の結婚・妊娠・出産・子育ての希望の実現を阻む要因が複雑に絡み合っているということが言われている。

地方創生総合戦略ができる前、10年近く前だが、その際、消滅可能性都市が話題になった。豊岡市で、10代で転出した男性が20代で戻ってくるのは半数、女性はさらに4分の1ということであった。豊岡でジェンダーギャップ対策に力を入れているのは、人口減少対策として、特に女性の方々が活躍できるような環境を作り生き生きと暮らしていただけるような取組をすることで、女性に豊岡に帰ってきてほしいという背景がある。最近再び消滅可能性都市が公表され、豊岡市の若年女性人口減少率は49.9%であった。前回時よりも女性の数が少なくなっているというのは間違いない。豊岡市の地方創生総合戦略の8年位の経過を見てみると、依然転出は多いが転入も多く、その差はだんだんと縮まってきている。だが、亡くなる数が増加している一方で出生数が少ないので、地方創生でいくら頑張っても豊岡でこどもが生まれるというものではない。

地方創生だけで豊岡に暮らす価値を高めようと頑張っているが、やはり市民の方々が子育てしやすい環境をしっかりと支えていかないとこどもは増えない。また、結婚観や、こどもを持つ・持たない等の価値観も変わってきているので、もちろん市でも努力するが、地域の皆さんや企業やいろんな方々が力を合わせないといけない。人口を増やすのは難しいかもしれないが、人口を維持し、豊岡で子育てしてよかったなと思えるまちがいいとは思う。

会長 出生数の減少というのは、おそらく地域特性があるのではないかと思う。そこは今後も検討していかなければならない。例えば、今回もジェンダー対策としてさまざまな事業が立てられているが、その効果性として、5年後の2030年に出生数が横ばいになるのか、それとも若干向上するのか、おそらくこれも1つの効果性として見ていくべき点だと思う。それでもずっと減少し続けるのであれば他の要因が存在するはずなので、早急に対応していかなければいけない。そういったことも、今後事務局で検討していただけたらなと思っている。

委員 とても難しい問題だと思う。一般論として、出生数が下がっていくのは日本全体の傾向であることは間違いない。地域性があると思うが、豊岡だからこそできることもたくさんあると思う。豊岡の魅力で人口や出生数を上げる方策も考えるべきであるし、あらゆる手立てを講じないといけない。豊岡でこどもを生んだらこういう良いことがあるよと言ってもらうことで他の人も移住した

くなる、そういったプラスの輪が広がっていくような子育て環境、こども育ちの環境ができればいいなと思う。

私の保育園では、都会から帰省したお母さんが一時保育を利用する際は、ここに預けてよかったと思ってもらえるような保育を提供することを心掛けています。もう少しこどもが大きくなったら豊岡に帰ってこようかなということにつながればいいなと思いながら日々保育している。どこの保育園も一緒だと思うので、いい方策を考えていただきたい。

委員 以前も話したが、豊岡のカリキュラムが素晴らしいと神戸の先生から言われて嬉しかった。こどもの減少が急速に進んでいる中で、民間園というのはこどもの数がすぐに経営に影響するため、即赤字経営となってしまう。ある市では、民間園の人数の調整をし、それぞれの園がつぶれないようにしているようである。しっかり市も理解していただき、こどもの育ちを維持するためにご支援をお願いしたい。

会長 他にあるか。次に移る。

事務局 **カ 市の組織（事務局関連）の改編について** **資料7**

会長 事務局からの説明に対し質問等はあるか。次に移る。

## (2) 協議

事務局 **ア こども計画（案）について** **資料8-1~4**

会長 事務局の説明に対し、何か、質問・意見があるか。

それでは、協議事項ア「こども計画（案）について」、原案どおりとしてよろしいか。

<異議なし>

異議なしの声をいただいた。原案通り承認することとする。

次に移る。

<副会長一時退室>

事務局 **イ 2025年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業について**

**(ア) 利用定員について** **資料9-1**

**(イ) 量の見込みと確保状況について** **資料9-2**

会長 事務局の説明に対し、何か、質問・意見があるか。

委員 資料9-1の利用定員の変更において、1号認定から多く引かれているなどという印象を持った。一方、資料9-2の量の見込みでの1号認定は、2025年度は量の見込みより申込児童数の方が少ないが、2023年度、2024年度は、量の見込みよりも利用児童数の方が勝っている。利用定員を1号認定から削っていても大丈夫なのだろうか。

事務局 2号3号は保育認定であり預かり時間が長いいため需要がかなりあるが、どうしても1号になると園に預けられる時間も短いということでもかなり減り幅が

多い。実際の需要も少なく量の見込みも押さえていく必要があるということで、こういった数字となっている。

委員 1号認定を減らすのであれば、その分2号認定を増やすということはないのか。以前も発言したが、今年も2号認定を5つ希望出したが全滅した。結局1号認定でいく予定だが、なぜ2号認定が増えないのかと思っている。

事務局 利用定員というのは、先生の人数や面積基準等で受け入れ体制を決めている。確かに2号認定の需要は増えているが、例えば1号認定が20人減ったからといってそれだけ2号を増やせるかというとなかなか難しく、各園の受け入れ体制等を勘案して進めているところである。

会長 もちろん園の実情をご理解した上での発言であると思う。やはり、実際に利用者が困っているという現状をしっかりと踏まえ対策を練っていくということが大事だと思われるので、今後検討いただければと思う。

それでは、協議事項イ「2025年度特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業について(ア)利用定員について及び(イ)量の見込みと確保状況について」、原案どおりとしてよろしいか。

<異議なし>

異議なしの声をいただいた。原案通り承認することとする。

次に移る。

<副会長再入室>

### (3) 意見交換

委員 小学校では、こどもの数は減っているが不登校の数は増えているという課題がある。今回の計画でも不登校のこどもに対するケアが拡充されておりそこは素晴らしいことだなと思うが、一度不登校になってしまうと学校に戻っていくのが非常に難しくなっていくので、不登校にならないためにこども一人ひとりにしっかり関わってあげることが非常に大事だと思う。もちろん、家庭・地域・学校と協力して関わる必要があるが、学校の中でも先生の負担が非常に大きくなってきている中で、こども一人ひとりにしっかり関わっていくという時間がなかなか取れていないのではないかと。先生にも生活があるので非常に大変だと思っているので、先生にしかできないことと先生でなくてもできることをしっかり分け、先生がこども一人ひとりに向き合える時間を少しでも取れるようにしていただくのがこれから大事であると思う。

会長 不登校が生じた時の対応も確かに大事だとは思うが、不登校が生じないようにするため、より幅広く、時系列的に対策を練っていくことが大事だと思う。

委員 1月、2月の震災のインタビューを聞く中で、人との関わりが非常に大事だということを言っておられた。ひきこもりのこどもたちも、子育てをされている方々も、皆が安心できる居場所づくりが大事だと思っている。居場所マップを作成するとおっしゃっていたので、見やすいマップを作成していただけたらと思う。こどもたちにも見やすい形で、分かりやすく絵もつけアニメっぽくし

たら親しみやすいものができるのではないか。

会長 どの年代が見ても分かるようなものというものをきちんと区別して作っていくということが大事だと思う。先日仙台にボランティアに行った時、亡くなられた園児の養育者の方々のお話を聞くと、同じようなことを言っておられた。そういったことを考えると、誰が見てもパッとわかるものというのは大事だと思う。

委員 本当に素晴らしいこども計画ができ、豊岡市はしっかりしているなど実感している。ドーナツの会で活動しているが、人と同じように歩めないのはその子が弱いとかその家庭が悪いとなりがちだが、そんなことは絶対はないという認識を持たないといけないと常に思っている。その子のせいやその家庭のせいにする、それは家族の問題となってしまう。これは社会の大きな課題であるので、気楽に相談できるつながりを持つために、こどもだけではなくてその親やおじいちゃんおばあちゃん、そして地域の人、人それぞれが居場所を持って生きていくということがとても大事だと思っている。社会的孤立が大きな課題となっている中、こどもがいろいろな人に声を掛けてもらうことはもちろん、もしお父ちゃんやお母ちゃんがいなくても代わる人がいるよと言えるような、そういう安心した環境を作っていくことが私達の大きな責任だと感じている。

会長 自分自身に対して、普通とは何か、多様性とは何かということ疑問に思った時に、相談できる場所や人がいることはとても大事だと思う。豊岡市の中でそういった居場所づくりというのはされていると思うが、よりこどもが気軽に行けるような、人と関われるコミュニティが作れる場があるといいなと改めて思った。

委員 コロナ禍の中で人と関わりにくい状況にあった子たちが小学校に上がる年代になってきている。我が子も、声掛けしてくれる地域の人を不審者と勘違いしてしまいそうになっていたのも、見分け方等、親もしっかり関わってやらないといけないなと感じた。人間関係を深める、地域のつながりを育むということも大事である。私が住んでいる地域は同じ子育て世代と出会いにくい場所であるが、高屋に住んでいるお母さんも出会わないと言っていた。子育てセンターに行かないと子育て世代の人とつながれないので、もっと地域が縁をつなぐような、そんな豊岡にまた戻っていったらいいなと感じている。

会長 昔のような人とのつながりをどう作っていくか、新たなつながり方というのは今後豊岡市として考えていかなければならない。例えば、こども同士のコミュニケーションが取れるようにあえて意図的に駄菓子屋を作った地域もある。そこでこども同士が話をし、また店主のおじいさんと話をしながら、こういう大人の人と話をするのはいいことだなということを理解していくところもあったりするので、もしかしたら新たな取組として豊岡市もそういったことをやっていくというのも1つの手だと思う。

委員 先程の話の中で、子育て中の女性の就労促進ということが出ていた。私自身も離婚してシングルマザーとして豊岡に戻ってきて、市の制度を利用して資格

を取り、今の職に就くことができた。シングルマザーということで環境が整わず資格を取ることを諦めてしまう方もたくさんいらっしゃったので、豊岡市の子育て中の女性の就労促進という制度がそういった環境の方にも活用されて、女性が活躍できる場が増えたらいいなと思う。

会長 女性が生活しやすい場としての環境をできるだけ整えていただき、こどもとの充実した時間を過ごしながら生活ができる、そんな場を豊岡市に作っていただけたらと思う。

委員 今まで、区長連合会として、区と区民をどう考えていくかという立場から発言させていただいていたが、皆さんのいろいろな意見を聞いて大変参考になった。

こどもを見守るというのは、区民や周りの人が見守っているいろんな話をするのが一番理想とは思いますが、なかなかそういうこともないと思う。私もこどもを5人育てたが、5人いると周りが放っておかず声を掛けてくれたので、割とスムーズにいろんなことで助けていただいた。そういうのが理想である。孤立する方が出ないためには、豊岡市はあいさつ運動があるので、誰かがおはようございますと声を掛けることが大事である。私のこどもたちにも常にあいさつというのを伝えてきたが、地方の大学に行ったこどもは、小学生におはようと声を掛け続けていたらいつの間にか不審者になっていた。でもやはり、声を掛けて、1人ではないよと伝えるのが一番よいのではないかと考えている。

区と住人の関わり合いは、祭りやイベントで交流を図っていくのが一番よいと思っている。今だんだんと少なくなってきているが、市に何らかの形で援助していただければ助かる。

会長 困っていますと周囲に言える環境はいいなと思う。こどもがたくさんいることも大事だが、ふとした時に困っていると言えるようなお互いの関係性があるといいなと思った。そのためには、声を掛け合うというのが人間にとって大事である。人にとって言葉というのは2つの意味があって、認知的な価値と感情的な価値があると言われている。さらにその言葉というのは、生物の中で唯一、人だけが情報を伝搬するために使う道具として進化してきたものだと言われている。そのように考えると、あえて人と人がその場にいるにもかかわらず言葉を掛け合わない方が、実は違和感がある。豊岡市が、気軽に「おはようございます」と言える、知らない人にも「こんにちは」と言えるような環境になってくれたらいいなと思う。

委員 私の家の玄関前に松の木があり葉が下に落ちるため掃いているが、小中学生の子たちが通ると必ずこちらからあいさつしていた。最初の頃はあいさつをしても返答がなかったが、半年位したらあいさつするようになった。やはり、こちらからしないと駄目だなと思う。あいさつする方は、ある程度勇気がいる。「おはよう」と言った時に何も反応がないとこちらも落ち込む。しかし、それに負けずにやっているとだんだんと向こうも反応してくれるので、まず自分からだなと思った。赤塚不二夫のレレレのおじさんは素晴らしい人だなと思いな

<p>会長</p>	<p>がら漫画を見ている。レレレのおじさんになりたいなと思っている。</p> <p>「お出かけですか」と気軽に毎回聞けるのは確かにすごいと思う。このワンピースに意味があると思っている。実は変わらなければいけないのは、こどもではなく大人なのではないか。先ほど、大人が一声掛けると不審者と思われるかもしれないという話があったが、こどもは実はそんなことを考えておらず、人がいるな、くらいにしか思っていない。やはり大人が心折れないように、レレレのおじさんのように、「お出かけですか、こんにちは」と声を掛けるところからスタートすることに価値があるのかなと思う。</p> <p>他にあるか。ないようなので意見交換を終わりたい。</p>
<p>4 その他 事務局 会長</p>	<p>&lt;退任委員あいさつ&gt;</p> <p>次回の会議については改めて連絡させていただく。</p> <p>これを持って本日の会議を終了させていただく。</p>
<p>5 閉会</p>	<p>副会長あいさつ</p>